

特集：市民参加で自然しらべ：活動事例紹介～植物を対象とした活動から～

みんなでつくる植物誌 ～高知県植物誌～

田辺由紀・藤川和美（高知県立牧野植物園）

高知県では2001年から高知県植物誌編纂事業を開始し、約8年の歳月をかけて「高知県植物誌」を刊行しました。県内には約3,170種類の維管束植物が生育することが明らかとなった『高知県植物誌』。完成に至るまでの取り組みを紹介します。



高知県植物誌

◎植物誌とは？

ある特定の地域に生育する植物の総目録です。従って、植物誌を編纂するには、植物がそこにあるまたはあったという科学的な記録・根拠が証拠標本として標本室に保管され、誰もがいつでも閲覧することができる公共性と永続性があること、また地域に生育する植物を網羅的に集めることが重要です。

◎植物誌ボランティアのちから

どうやって地域に生育する植物を網羅的に集めることができるのでしょうか。県内を19に区分してエリアを決め、チームで調査をする「特定区調査」、個人で地域を決めて調査する「地域調査」、シダ植物といった特定の植物を調査する「特定種調査」の方法による網羅的な標本収集を行いました。主体となったのはボランティアの皆さんです。地域の植物に精通する愛好家の方々を調査リーダーに委嘱してチームを構成、またボランティアサポーターを広く募り、標本作製ボランティアを含めて約350名の方々にご協力頂きました。そして集められた標本は約108,000点になりました。

◎安心・安全そして信頼の構築

市民参加型の調査は、植物に対する興味だけでは継続は難しく、やりがいのある活動であるか否かがポイントになります。牧野植物園内に設置された事務局は、鴻上泰氏（2001～2002年度）、小林史郎氏（2003～2007年度）の局長が中心となり採集者への速やかな同定結果の還元に努め、標本採集、作製教室や分類セミナー等を開催す



調査の様子。採集した標本は、その場で仮押し。

るなど、随時レベルアップを図りました。また、地域ごとに生育すると考えられる植物のうち、未採集の植物のリストを作成して配信するなど、やる気の出る工夫をしました。他方、ボランティア保険への加入、ケガ、ヘビやハチに刺されたときなどの応急処置に対応できるように緊急・応急処置講習会の開催、国立・国定公園などへの調査採集許可申請や各市町村への協力依頼等を事務局が行いました。このように安心・安全の調査体制を確立し、またボランティアの皆さんとの信頼関係を構築していきました。



植物の見分け方教室

◎地域の宝

郷土の豊かな自然環境を守り育てていくために、地域の人々と植物をむすび自然を慈しむ輪を広げ、後継者となる人材を育成する、これこそ、高知県の宝であり、みんなでつくる植物誌『高知県植物誌』の大きな成果であると思います。

連絡先：藤川和美 高知県立牧野植物園 植物研究課

URL <http://www.makino.or.jp/>